

論 説



品質工学会の進むべき道とビジョン30に向けた長期計画の策定

The Way to go of the Robust Quality Engineering Society and The Long-term Plan for Vision 30

吉澤 正孝*

Masataka Yoshizawa

1. はじめに

一般社団法人品質工学会は、前会長の齊藤潔のリーダーシップにより学会創立25年を記念して2016年一般社団法人となった。初年度の活動として、記念事業を行うことにした。すでに、品質工学会の目的と事業は定款の中に定められているが、あるべき姿や今後活動するにあたっての共有価値など事業としての枠組みを定めておくことが経営の最大課題と認識した。そこで25周年記念活動委員会（以後、委員会という）を設置し、それらの枠組みを決めること、つまり方略を策定すること、長期の活動を検討することにした。およそ半年の活動を行い、今後の事業の枠組みとして「理想を目指して 新たな品質工学の道」が昨2017年6月の総会において承認された。

その活動の中で、30周年に向けてビジョン30を設定し、それを実現するための長期計画を立案した。それらを定めることは経営戦略の一つと考える。すでに25年活動してきた任意団体のときには長期の計画を持って活動してきたわけではない。全く新しく法人としての活動を開始するわけであるから、一度事業を根本から見直し、目的、目標を再設定するのが良いと考えた。ビジョン30は、三つの活動項目で構成され、長期の計画として10のプログラム19のプロジェクトを設定した。現在、その計画に従って活動を始めている。この組織の大方針と戦略を定めるにあたり、品質工学会の理事全員が協力して活動してきた。今までの計画策定活動は、経営の

戦略技術に関わるものと考え品質工学の考え方も含めて実施してきたので、その活動について報告する。

2. 新たな活動の企画

一般社団法人としてのこれからの進むべき方向を制定することは、組織にとっての方略を作ることであろう。ここでいう方略とは、組織経営の根本に関する問題に対する計略であると考えている。そのため、その組織は、何を指して、何を目的にして、何を、なぜするかを問うことであり、数あるアイデアの中からそれらを決める集中と選択行為である。組織の経営に関わる基本事項の計画であり最大関心事である。その方向やそれを達成する指針をどのように考えたら良いかを最初に決めなければならない。そこで、基本命題を設定し、その命題に対して答えを出すためのコンセプトと、具体的にアイデアを引き出すためのコンセプトが必要であると考えた。そこで、広く戦略立案の考え方を検討し過去の経験を加味して、次の三つの手立てを採用することにした。

- 命題の設定のための戦略立案コンセプト：大前研一の経営戦略フレーム
- 答えを引き出すためのコンセプト：田口玄一の技略
- 具体的な創造を引き出すコンセプト：孫子の兵法から派生したベンチマーキング

である。それぞれの指針を選択した理由は以下のとおりである。

大前によれば、次の4つの項目¹⁾を改めて問い、

* クオリティ・ディーブ・スマーツ(責)